



レポート変換ツール ガイド

■ SAP BusinessObjects Business Intelligence (BI) platform 4.1, Support Package 1

2013-09-19

著作権

© 2013 SAP AG or an SAP affiliate company. All rights reserved.本書のいかなる部分も SAP AG の明示的許可なしに、いかなる形式、目的を問わず、複写、または送信することを禁じます。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。SAP AGがライセンス、またはその頒布業者が頒布するソフトウェア製品には、他のソフトウェア会社の専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。これらの文書は SAP AG およびその関連会社（「SAP グループ」）が情報提供のためにのみ提供するもので、いかなる種類の表明および保証を伴うものではなく、SAP グループは文書に関する錯誤又は脱漏等に対する責任を負うものではありません。SAP グループの製品およびサービスに対する唯一の保証は、当該製品およびサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。SAP、および本書で言及されるその他 SAP の製品およびサービス、ならびにそれらのロゴは、ドイツおよびその他諸国における SAP AG の商標または登録商標です。商標に関する情報および表示の詳細については、<http://www.sap.com/japan/company/legal/copyright/index.epx>をご覧ください。

2013-09-19

目次

第 1 章	レポート変換ツールの概要.....	5
1.1	レポート変換ツールとは.....	5
1.2	Desktop Intelligence から Web Intelligence への変換ワークフロー.....	6
第 2 章	レポート変換ツールの作業モード.....	9
2.1	レポート変換ツールの接続モード.....	9
2.2	レポート変換ツールのスタンドアロンモード.....	9
第 3 章	レポート変換ツールの使用.....	11
3.1	レポート変換ツールのインストール.....	11
3.2	レポート変換ツールのユーザ設定の編集.....	11
3.3	レポート変換ツールの起動.....	11
3.3.1	レポート変換ツールを接続モードで起動する.....	11
3.3.2	レポート変換ツールをスタンドアロン モードで起動する.....	12
3.4	レポートの選択.....	12
3.4.1	リポジトリを参照する.....	13
3.4.2	レポート変換ツールを使用してレポートを検索する.....	13
3.4.3	変換のためにレポートを個別に選択する.....	13
3.4.4	変換のためにレポートをフォルダ別に選択する.....	14
3.4.5	変換のためにレポートをカテゴリ別に選択する.....	14
3.4.6	変換対象レポートの一覧を保存し開く.....	14
3.4.7	レポートを変換する.....	15
3.4.8	レポート変換のステータスアイコン.....	15
3.4.9	SQL 文の直接入力またはストアドプロシージャを含むレポートの変換に関する制限.....	16
3.5	変換結果の表示と監査データベースの選択.....	17
3.5.1	監査接続を作成し、それをレポート変換ツールに割り当てる.....	17
3.5.2	レポート変換ツールの監査レポートを表示する.....	18
3.6	変換されたレポートの公開.....	18
3.6.1	変換されたレポートを公開する.....	19
3.6.2	完全に変換されたレポートを比較する.....	19
3.7	Desktop Intelligence レポートインスタンスから Web Intelligence インスタンスへの変換.....	21

第 4 章	Desktop Intelligence 機能の変換.....	25
4.1	レポートの機能と変換のステータス.....	25
4.1.1	完全に変換されたレポート.....	25
4.1.2	部分的に変換されたレポート.....	26
4.1.3	変換されないレポート.....	26
4.2	機能の変換ステータスのカスタマイズ.....	26
4.2.1	初期化ファイルについて.....	27
4.2.2	初期化ファイルの編集.....	27
4.3	機能とその変換ステータス.....	28
4.4	レポート変換ツールでの式の変換.....	34
4.5	Desktop Intelligence レポートインスタンスから Web Intelligence インスタンスへの変換.....	34
第 5 章	Windows AD 認証用のレポート変換ツールの設定.....	37
付録 A	より詳しい情報.....	39
	索引.....	41

レポート変換ツールの概要

SAP BusinessObjects Business Intelligence (BI) プラットフォーム 4.1、サポートパッケージ 1 で、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence XI R2 および XI 3.x (.rep) レポートを Web Intelligence 4.1、サポートパッケージ 1 (.wid) 形式に変換するには、レポート変換ツールを使用します。

Desktop Intelligence レポートの変換を開始する前に、SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.1、サポートパッケージ 1 クライアントツールをインストールおよび設定する必要があります。

Desktop Intelligence レポートを Web Intelligence レポートに変換する前に、アップグレード管理ツールを使用してレポートの依存関係（フォルダ、オブジェクト、ユニバース、その他のアプリケーションオブジェクトなど）をターゲット CMS の場所に移行しておくことをお勧めします。これを行うことにより、変換後にレポートを最新表示できます。

注

アップグレード管理ツールを Desktop Intelligence レポートに使用しない場合、変換された (Web Intelligence) レポートを最新表示できない場合があります。

1.1 レポート変換ツールとは

レポート変換ツールは、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence XI R2 および XI 3.x レポートを Web Intelligence 4.1、サポートパッケージ 1 (SP1) 形式に変換し、変換したレポートを 4.1、SP 1 CMS に公開します。

一部の機能はレポートの変換を妨げることがあるため、レポート変換ツールでは Desktop Intelligence のすべての機能が変換されるとは限りません。変換のレベルは、元のレポートの機能によって変わります。一部の機能は、変換中に変更、再実装、または削除される場合があります。

このツールでは、各レポートに対して、次に示す 3 つのステータスのいずれかを割り当てます。

- ・ 完全に変換
- ・ 一部のみ変換
- ・ 未変換

レポート変換ツールを使用して、変換されたレポートを監査することもできます。これにより、レポート変換ツールで完全に変換できないレポートを識別でき、その理由を理解しやすくなります。

注

BI 4.1 SP1 CMS は Desktop Intelligence ドキュメントをホストすることができるため、レポート変換ツールで 4.1 SP1 を Desktop Intelligence ドキュメントのソース CMS にすることができます。以下は、ソース CMS システムおよびターゲット CMS システムのバージョンサポートマトリクスです。

ソース CMS バージョン	ターゲット CMS バージョン
XI R2	BI 4.1 SP1
XI 3.0 または XI 3.1	BI 4.1 SP1
BI 4.1	BI 4.1 SP1
BI 4.1 SP1	BI 4.1 SP1

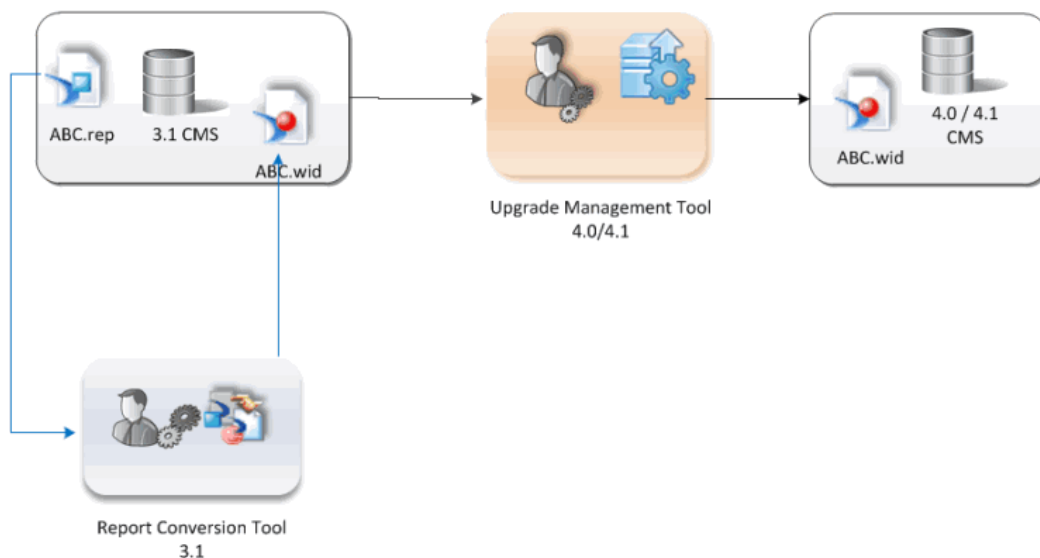
- ・ ソース CMS が BI 4.1 SP1 バージョンのマシンの場合、ターゲットも同じシステムである必要があります。ターゲットの 4.1 CMS が別のマシンである場合、変換できません。
- ・ BI 4.0 バージョンの CMS を変換のソース CMS にすることはできません。

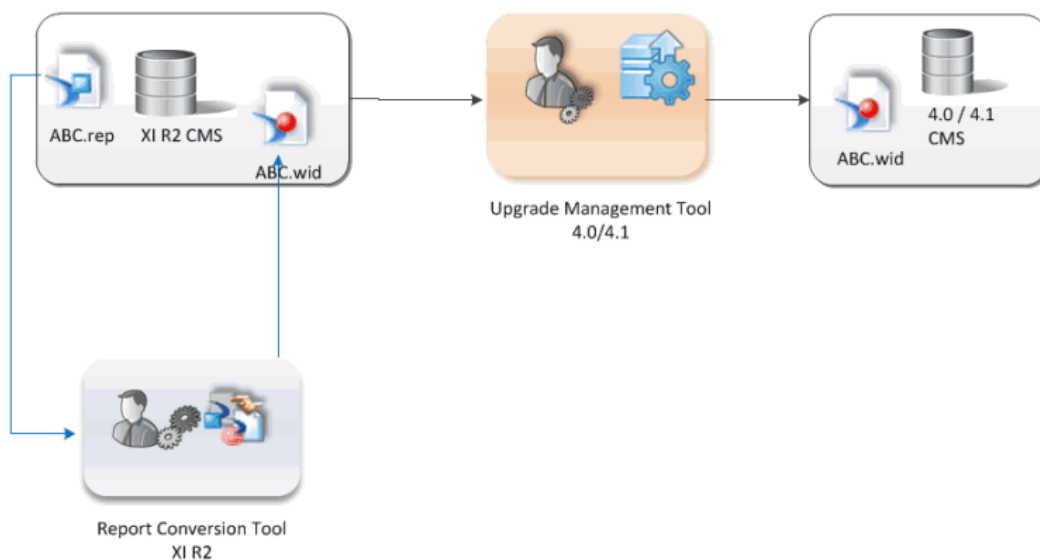
1.2 Desktop Intelligence から Web Intelligence への変換ワークフロー

この章では、ソースおよびターゲットの CMS システムのバージョンに基づいて適用できる、Desktop Intelligence レポートから Web Intelligence への変換パスについて説明します。

1 つ目のパス (下の最初の 2 つの図で示します)

- 1 XI 3.x または XI R2 CMS システムの Desktop Intelligence (.rep) レポートを、XI 3.x または XI R2 レポート変換ツールを使用して、同じスタックの Web Intelligence (.wid) に変換します。
- 2 次に、アップグレード管理ツールを使用して Web Intelligence レポートをアップグレードし、BI 4.0 または BI 4.1 CMS に公開します。



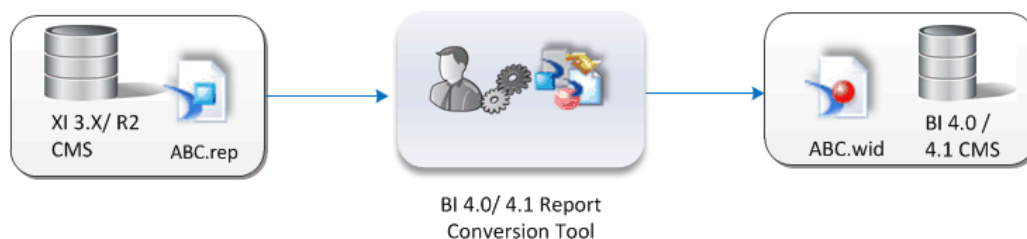


2 回目のパス (下の図で示します)

XI 3.x または XI R2 CMS システムの Desktop Intelligence (.rep) レポートを、レポート変換ツール (4.0 または 4.1) を使用して Web Intelligence (.wid) に変換し、BI 4.0 または BI 4.1 CMS システム (ターゲット) に公開します。ソースレポートの依存関係はターゲットに移動しません。このパスでは、アップグレード管理ツールは使用しません。

注

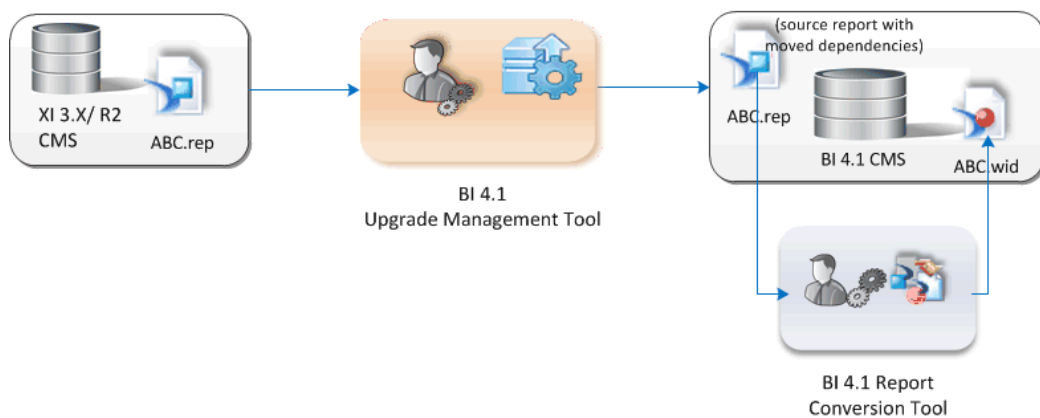
管理者の個人用ドキュメントを XI R2 ソースから変換する場合は、変換前にアップグレード管理ツールを使用して、ユーザフォルダと個人用フォルダを移行しておくことをお勧めします。



Note: In this conversion scenario, the converted report (ABC.wid) cannot be refreshed because the dependencies are not migrated to target CMS using the Upgrade Management Tool.

3 回目のパス (下の図で示します)

- 1 最初に、XI 3.x または XI R2 の Desktop Intelligence レポートとそれらの依存関係 (フォルダ、オブジェクト、ユニバース、接続など) を、4.1 アップグレード管理ツールを使用して BI 4.1 CMS に移行します。
- 2 次に、4.1 レポート変換ツールを使用して Desktop Intelligence レポート (.rep) を Web Intelligence (.wid) に変換し、4.1 CMS に公開します。



Note: Source Desktop Intelligence reports can reside on a BI 4.1 CMS system. In the above conversion approach, you can have both Desktop Intelligence (source) and Web Intelligence (converted) reports on the same target CMS, and can take advantage of using Desktop Intelligence features that are not yet available in Web Intelligence.

注

上の図にある BI 4.1 CMS および BI 4.1 ツールに適用されるすべての情報は、BI 4.1、サポートパッケージ 1 にも同様に適用されます。

レポート変換ツールの作業モード

レポート変換ツールは、接続モードとスタンドアロン モードの 2 つのモードで作業できます。

2.1 レポート変換ツールの接続モード

接続モードでは、レポート変換ツールはソース CMS (Desktop Intelligence ドキュメントがある場所) と出力先 CMS (Web Intelligence ドキュメントが公開される場所) に接続されます。

- ・ ソース CMS に保存されている Desktop Intelligence ドキュメントを Web Intelligence 形式に変換できます。
- ・ 変換されたドキュメントは 4.1、サポートパッケージ 1 CMS に公開できます。
- ・ 変換セッション中にユニバースを作成する必要がある場合、ユニバースは出力先 CMS 内に作成されます。

注

Desktop Intelligence レポートを SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャで作成した場合、レポート変換ツールでは、SQL 文の直接入力やストアードプロシージャを現在サポートしない Web Intelligence として、ユニバースオンザフライが作成されます。

接続モードのセキュリティ

接続モードで作業しているとき、ユーザー アカウントのセキュリティ権限は、CMS によって適用されます。

2.2 レポート変換ツールのスタンドアロンモード

スタンドアロン モードでは、レポート変換ツールは CMS に接続されないため、セキュリティは設定されません。作業は、ローカルの保護されていないドキュメントとユニバースに対してのみ可能です。ローカルとは、コンピュータのハードディスクに保存されているということです。ネットワークサーバは含まれません。

スタンドアロン モードでは、ドキュメントを CMS にインポートしたり、ドキュメントを CMS からエクスポートすることはできません。

ローカルの保護されていないユニバースを使用して、ローカルの保護されていないドキュメントを作成したり最新表示したりするために必要なミドルウェアを、レポート変換ツールと共にコンピュータにインストールする必要があります。

- ・ Desktop Intelligence ドキュメントを Web Intelligence に変換できます。
- ・ 以前のバージョンの Desktop Intelligence XI R2、3.0、または 3.1 で作成されたドキュメントは、使用するユニバースがローカルの 4.1 SP1 ユニバースフォルダ (C:\Users\<ユーザー名>\AppData\Roaming\SAP

BusinessObjects¥SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0¥Universes) にコピーされ、保護されていない (すべてのユーザ用に保存されている) 場合、Web Intelligence 4.1、サポートパッケージ 1 に変換できます。

- ・ SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャを使用しているドキュメントは、Web Intelligence 4.1、サポートパッケージ 1 に変換できません。

注

監査ログを作成する場合、または “SQL 文の直接入力” および “ストアードプロシージャ” レポートを検出する場合は、Universe Designer をインストールする必要があります。

スタンドアロンモードを使用する場合

スタンドアロン モードは、CMS のセキュリティや CMS 接続を使わずに作業する場合に使用します。これを利用すると、ローカルに保存されている保護されていない任意の数のドキュメントを CMS のパフォーマンスに影響を与えずに 1 つの操作で変換できます。

レポート変換ツールの使用

3.1 レポート変換ツールのインストール

レポート変換ツールは、Microsoft Windows プラットフォームで実行されます。これは、SAP BusinessObjects 4.1、サポートパッケージ 1 のクライアントのインストールを実行するときに、デフォルトでインストールされます。カスタムインストールを実行する場合は、これをインストールするためにレポート変換ツールを選択する必要があります。

注

監査ログを作成する場合、または SQL 文の直接入力およびストアドプロシージャレポートを検出する場合は、デザイナーをインストールする必要があります。

3.2 レポート変換ツールのユーザ設定の編集

デフォルトでは、Administratorsグループまたはレポート変換ツールユーザグループにレポート変換ツールを使用するためのアクセス権があります。

[SAP Business Objects Enterprise アプリケーション] > [レポート変換ツール] セクションでセントラル管理コンソールを使用してユーザのアクセス権を編集できます。

3.3 レポート変換ツールの起動

レポート変換ツールは、次のいずれかの作業モードで起動できます。

- ・ 接続
- ・ スタンドアロン

3.3.1 レポート変換ツールを接続モードで起動する

接続モードでは、セキュリティは CMS によって処理されます。

レポート変換ツールを接続モードで起動する場合、CMS とクライアント/サーバ接続されます。

- 1 [スタート] > [プログラム] > [SAP BusinessObjects Business Intelligence] > [SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4 クライアントツール] > [レポート変換ツール] の順にクリックします。
レポート変換ツールのログインページが開きます。
- 2 [ソース] フィールドで、有効なユーザ名とパスワードを入力し、[システム] リストからソース CMS を選択して、Enterprise 認証モードを選択します。
- 3 [出力先] フィールドで、有効なユーザ名とパスワードを入力し、[システム] リストから出力先 CMS を選択して、Enterprise 認証モードを選択します。
- 4 レポート変換ツールのインターフェイス言語を変更する場合は、[使用可能な言語] をクリックして言語を選択します。
- 5 [ログイン] をクリックします。

レポート変換ツールが接続モードで起動します。

注

ソース CMS が BI 4.1 システムの場合、同様に、ターゲットも同じ [4.1 CMS] である必要があります。ターゲットの 4.1 CMS が別のマシンである場合、変換できません。

3.3.2 レポート変換ツールをスタンドアロン モードで起動する

スタンドアロン モードでは、CMS で保護されたドキュメントまたはユニバースを処理できません。

ユニバースを処理するには、ユニバースが C:\Documents and Settings\<ユーザ名>\Application Data\SAP Business Objects\SAP Business Objects 4.0\Universes にある必要があります。マップされたネットワークドライブは、スタンドアロンモードで使用できます。

- 1 [スタート] > [プログラム] > [SAP BusinessObjects Business Intelligence] > [SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4 クライアントツール] > [レポート変換ツール] の順にクリックします。
- 2 [認証] リストから [スタンドアロン] を選択します。
[システム]、[ユーザ名]、[パスワード] の各フィールドは無効になっています。
- 3 レポート変換ツールのインターフェイス言語を変更する場合は、[使用可能な言語] をクリックして言語を選択します。
- 4 [ログイン] をクリックします。

レポート変換ツールがスタンドアロン モードで起動します。

3.4 レポートの選択

レポート変換ツールウィザードの最初の画面を使用して、変換するレポートを選択します。接続モードでは、左の枠に CMS リポジトリがツリー形式で表示されます。このリポジトリからレポートを選択し、それらのレポートを右側にある変換対象の一覧に移動します。

リポジトリを参照する場合は、フォルダまたはカテゴリ別に表示することができます。

3.4.1 リポジトリを参照する

リポジトリを参照するには、次の手順に従ってください。

- 1 [フォルダ] をクリックしフォルダ別にリポジトリを表示するか、[カテゴリ] をクリックしカテゴリ別にリポジトリを表示します。
- 2 フォルダまたはカテゴリのプロパティを表示するには、フォルダまたはカテゴリを右クリックしてから [プロパティ] をクリックします。
- 3 フォルダまたはカテゴリの内容を最新表示するには、フォルダまたはカテゴリを右クリックしてから [最新表示] をクリックします。
- 4 変換されていないレポートのみを表示するには、画面の下部にある [変換されていないドキュメントのみを表示] を選択します。

関連項目

- ・ 15 ページの [レポート変換のステータスアイコン](#)

3.4.2 レポート変換ツールを使用してレポートを検索する

変換するレポートの名前がわかる場合は、次の手順を実行して検索します。

- 1 フォルダまたはカテゴリの一覧の下にある検索ボックスにレポートの名前を入力します。
- 2 検索ボックスの右側にある [検索] アイコンをクリックします。
特定のレポート名を検索することもできます。“Sales2”を検索した場合、“Sales2006”や“Sales 2007”など、“Sales2”から始まる名前のレポートがすべて検索されます。
レポート変換ツールでは、検索項目に一致するレポートが強調表示されます。

3.4.3 変換のためにレポートを個別に選択する

- ・ レポート変換ツールウィザードの [レポート選択] 画面で、左の枠からレポートを選択して [>>] をクリックするか、レポートを右クリックして [ドキュメントをバッチ一覧に追加] をクリックして、レポートを変換対象レポートの一覧にコピーします。

3.4.4 変換のためにレポートをフォルダ別を選択する

- 1 [フォルダ] をクリックし、フォルダ別にレポジトリを表示します。
- 2 変換するレポートのあるフォルダを右クリックします。
- 3 フォルダ内のすべてのドキュメント、または、フォルダとそのサブフォルダ内のすべてのドキュメントを選択します。
 - ・ フォルダ内のすべてのドキュメントを変換対象レポートの一覧に追加する場合は、[フォルダのみ選択] をクリックします。
 - ・ フォルダおよびそのサブフォルダ内のすべてのドキュメントを変換対象レポートの一覧に追加する場合は、[フォルダとサブフォルダを選択] をクリックします。

3.4.5 変換のためにレポートをカテゴリ別を選択する

- 1 [カテゴリ] をクリックし、カテゴリ別にレポジトリを表示します。
- 2 変換するレポートのあるカテゴリを右クリックします。
- 3 カテゴリ内のすべてのドキュメント、または、カテゴリとそのサブカテゴリ内のすべてのドキュメントを選択します。
 - ・ カテゴリ内のすべてのドキュメントを変換対象レポートの一覧に追加する場合は、[カテゴリのみ選択] をクリックします。
 - ・ カテゴリおよびそのサブカテゴリ内のすべてのドキュメントを変換対象レポートの一覧に追加する場合は、[カテゴリとサブカテゴリを選択] をクリックします。

3.4.6 変換対象レポートの一覧を保存し開く

変換対象レポートの一覧を保存するには、まずレポート変換ツールを起動して、1 つ以上のレポートを変換対象ファイルの一覧に移動する必要があります。

変換対象として選択したレポートの一覧をファイル(XML 形式)に保存し、後からこのファイルを開いて一覧を設定できます。

- 1 変換用ファイルの一覧にレポートが 1 つ以上存在する状態で、[一覧を保存] をクリックします。
- 2 [保存] ダイアログボックスに作成する一覧の名前を入力し、[OK] をクリックします。
- 3 後で一覧を開くには、ウィザードの [レポートの選択と変換] 画面で、[リストを開く] をクリックします。
- 4 開いて検証するファイルを選択します。
ファイル内のドキュメントが、変換用ドキュメントの一覧に表示されます。

3.4.7 レポートを変換する

レポート変換ツールウィザードの [レポートの選択] 画面では、変換対象レポートの一覧が配置されています。

- 1 レポートのデータをテキスト形式に変換するには、[すべてのセル内容をテキストとして読み込む] を選択します。

レポート変換ツールによってデータがテキスト形式に変換されます。このチェックボックスは、デフォルトで選択されています。このオプションの選択を解除した場合、データはハイパーリンクに変換されます。

- 2 変換対象レポートの一覧に SQL 文を含むレポートが 1 つ以上含まれている場合、[SQL 文の直接入力とストアドプロシージャを含むドキュメントを変換します] を選択します。

レポート変換ツールは、SQL 文のあるレポートを含むすべてのレポートを変換します。このオプションを選択しない場合、SQL 文のあるドキュメントは変換されません。

- 3 [次へ] をクリックします。

ドキュメントが変換されている間は、[変換中] 画面が表示されます。この画面には、変換中のすべてのドキュメントとその変換ステータスが一覧表示されます。

3.4.8 レポート変換のステータスアイコン

レポート変換ツール ウィザードの [レポートの選択] および [変換中] 画面には、レポートの変換ステータスがアイコンで示されます。

アイコン	ステータス	説明
	完全に変換	レポート構造および形式は、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence と Web Intelligence で同じです。 注 変換されたレポートの構造は元のレポート構造と同じですが、Web Intelligence 計算エンジンはこの構造を常に SAP BusinessObjects Desktop Intelligence 計算エンジンと同じ方法で解釈するわけではないので、特定の環境では、そのレポートが異なる値を返す場合があります。
	一部のみ変換	一部のレポート機能が Web Intelligence に変換されました。変換されていない機能もあります。
	未変換	Web Intelligence に相当するものがない重要な機能が含まれるので、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence レポートは変換されませんでした。

3.4.9 SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャを含むレポートの変換に関する制限

レポート変換ツールでは、SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャを含む SAP BusinessObjects Desktop Intelligence レポートを変換できます。ただし、次の制限があります。

- ローカルマシンにデザイナをインストールする必要があります。
- レポート変換ツールでは、CMS に保存されたデータベースへの保護された接続を使用する必要があるため、SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャを含むレポートの変換は接続モードでのみ実行できます。
- SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャは、SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャと同じ名前のユニバースに変換されます。
- ユニバースは、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence レポートで SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャに使用したのと同じ接続を使用します。
- パラメータプロンプトを必要とする SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャの場合、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence レポートの設定方法に応じて、生成されたユニバースが次のいずれかの方法でそれを処理します。
 - SAP BusinessObjects Desktop Intelligence レポートで SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャに送信されるように設定されたものと同じパラメータを設定する。
 - Web Intelligence レポートの最新表示時にプロンプトを表示する。

3.5 変換結果の表示と監査データベースの選択

レポート変換ツールを起動し、ウィザードの手順に従いレポートを選択および変換すると、[変換セッションの監査] 画面が表示されます。

この画面には、変換されたレポートが変換ステータス (完全に変換、一部のみ変換、未変換) 別に表示されます。各カテゴリにある変換されたレポートの割合が表示されます。

また、この画面を使用して、レポート変換ツールが変換の詳細を書き込む監査データベース接続を選択して、完全に変換されていないレポートがある場合に、その理由を分析することもできます。それには、まずデザイナーで監査データベース接続を作成し、CMS を介してそれをレポート変換ツールに割り当てる必要があります。既存のデフォルトの接続 [Conversion Audit Connection] を使用することもできます。

注

正しい接続パラメータを使用してデフォルトの接続を編集し、その接続でレポートが正常に実行されることをテストしてください。

[Report conversion Tool audit statistics report] は、[Conversion Audit Connection] にリンクされる [Report Conversion Tool audit universe] を使用して作成されます。[Report Conversion Tool audit statistics report] は、デフォルトのレポートですが、独自のレポートも作成できます。

注

デフォルトの接続を選択しない場合、選択した接続が [Report Conversion Tool audit universe] にリンクされていることを確認する必要があります。

関連項目

- 15 ページの [レポート変換のステータスアイコン](#)

3.5.1 監査接続を作成し、それをレポート変換ツールに割り当てる

変換したレポートを公開する前に、レポート変換ツールを使用して、変換結果を選択した監査データベースに書き込むことができます。一部のレポートが完全に変換されていない場合は、このデータを使用して理由を分析できます。監査データベースを使用するには、まずデザイナーで接続を作成して、それをレポート変換ツールに割り当てる必要があります。

- 1 SAP BusinessObjects Universe Designer を起動して、ログインします。
- 2 [ツール] > [接続] を選択します。
- 3 [追加] をクリックします。
- 4 新規接続ウィザードの手順に従って接続を作成します。詳しくは、『Designer ガイド』を参照してください。
レポート変換ツールの監査は、Oracle、SQL Server、DB2、Sybase、mysql の各データベースのみをサポートしています。RDBMS での監査の使用は保証されません。

- 5 CMC にログインし、[アプリケーション]>[レポート変換ツール]>[プロパティ]をクリックして、監査に使用する接続を選択し、[更新]をクリックします。
- 6 レポート変換ツールの [監査データベースに変換結果を保存する] 画面で、[監査設定] の下にある [監査データベースに変換結果を保存する] オプションを選択し、一覧から監査接続を選択します。
作成した接続が一覧に表示されない場合は、[最新表示] をクリックします。
テーブルにデータを追加する方法を選択することもできます。

オプション	説明
新しい行を挿入する前に既存の監査テーブルの行を削除する	現在の変換を監査する前に、監査テーブルの既存のデータをクリアする場合は、これを選択します。以前に監査テーブルに書き込んだ行だけが削除されます。その他のユーザが書き込んだ行は、テーブルに残ったままになります。
新しい行を監査テーブルに追加する	現在の変換データを既存の監査データに追加する場合は、これを選択します。

最後に、テーブルの各行にコメントを追加できます。

変換結果は、この監査データベースに書き込まれ、後で分析に使用できます。

3.5.2 レポート変換ツールの監査レポートを表示する

レポート変換ツールの監査データベース接続と変換されたレポートを選択しています。レポート変換ツールの [公開する変換ドキュメントを選択します] 画面が表示されています。

- 1 [監査レポートを開く] をクリックします。
Report Conversion Tool audit statistics report の場所は、Public folder¥Report conversion tool¥Report conversion tool documents¥Report Conversion Tool audit document¥ です。
- 2 表示されたログインページで、BI プラットフォーム接続の認証情報を入力します。
監査レポートが表示されます。

3.6 変換されたレポートの公開

レポート変換ツールを起動し、ウィザードの手順に従いレポートを選択および変換して、変換結果を表示すると、[レポートの公開] 画面が表示されます。

[レポートの公開] 画面からは、変換結果を参照できます。

ウィザードの手順で、変換されたレポートの全体および一部を公開できます。公開する前に BI ラウンチパッドでレポートを表示できます。

3.6.1 変換されたレポートを公開する

これまで、レポートを選択および変換し、変換結果を参照しました。そして、レポート変換ツールの [レポートの公開] 画面が表示されています。

- 1 オプションで、変換されたレポートの監査レポートを表示するには、監査データの保存を選択している場合は、[変換結果] の一覧の下にある [監査レポートを開く] をクリックします。
- 2 行の左にあるチェックボックスをオンにして、公開するレポートを選択します。このチェックボックスはデフォルトでオンになっていますが、これをオフにすると、レポートは公開されません。
- 3 レポートの行を選択してから右クリックして、ターゲット名、ターゲットフォルダ、ターゲットカテゴリなど、公開の詳細を変更します。
デフォルトでは、ターゲット名にはソース レポート名がつけられます。ターゲット名は変更できます。
- 4 [次へ] をクリックして、レポートを公開します。

変換されたレポートが公開されます。パブリケーションが完了すると、[公開が完了しました] 画面が表示されます。この画面には、ファイルの名前とそのパブリケーションステータスが一覧表示されます。ウィンドウの下部には、各ステータスのレポート数を示すステータスアイコンが表示されます。ステータスには次のものが含まれます。

- ・ 公開が完了しました: レポートは完全に公開されています。
- ・ 一部のみ公開: レポートにリンクされている出力先マシンにあるユニバースが使用できないため、レポートの一部だけが公開されています。
- ・ 未公開: 出力先マシンにあるレポートが公開されていて、その既存のレポートを置き換えない場合、レポートは公開されません。
- ・ 公開に失敗しました: レポートは公開できませんでした。

3.6.2 完全に変換されたレポートを比較する

1 つ以上のレポートを Desktop Intelligence から Web Intelligence 形式に変換しました。レポート変換ツールの [変換の監査] 画面が表示されています。

SAP BusinessObjects Desktop Intelligence レポートと変換後の Web Intelligence レポートは、計算エンジンの違いによりデータが異なる場合があります。レポート変換ツールから、レポート比較ツールの Delta Viewer を呼び出し、元のレポートと変換されたレポート(完全に変換されたレポートのみ)を比較して、違いがある場合はその違いを確認できます。




- 1 レポート変換ツールの [監査データベースに変換結果を保存する] 画面で、[完全に変換されたドキュメントの比較] オプションを選択します。
- 2 必要に応じて監査設定を設定します。
- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 変換元のドキュメントと変換されたドキュメントの比較が完了したら、[比較] ボックスの [OK] をクリックします。

公開する変換ドキュメントの選択画面で、[違いを表示] ボタンを使用するとドキュメント間のデータの差分が表示されます。

- 5 [違いを表示] ボタンをクリックし、レポート比較ツールのデルタビューアを開きます。

3.6.2.1 完全に変換されたドキュメントのレポート比較ステータスのアイコン

次の表に、完全に変換されたドキュメントのレポート比較ステータスを表すアイコンを示します。

アイコン	ステータス	説明
	同一	レポートは同一です。
	更新	レポートは完全に変換されています。ただし、計算の差異のために、変換されたレポートはソースレポートと異なります。
	手動チェックが必要	<ul style="list-style-type: none"> ・ チャート/グラフィックを手動でチェックする必要があります。 ・ 「移行元ではレポート出力は生成できませんでした」などのエラーのために、レポートは完全に比較されていません。

3.6.2.2 レポート比較ツール

3.6.2.2.1 Delta Viewer

[Delta Viewer] は、比較ツールの主要なダイアログボックスです。比較結果の詳細を表示することができます。

[Delta Viewer] では、レポート出力比較 (.roc) ファイルを表示、保存、分析します。

[Delta Viewer] では、次のカラーコードを使用して、2 つのドキュメント間の違いを示します。

- ・ 更新された項目は緑で表示
- ・ 除外された項目は赤で表示
- ・ 挿入された項目は青で表示
- ・ 同一の項目は黒で表示

.roc ファイルを開いた場合、または新しい比較処理の完了後に [Delta Viewer] を開くことができます。

[Delta Viewer] を使用して結果を分析する

[Delta Viewer] ダイアログボックスに 2 つのドキュメントの比較の詳細が表示されます。

レポート比較ツールのオプションメニューは次のとおりです。

- ・ Tree Panel
- ・ Block Panel
- ・ Slice and Dice Panel

Delta Viewerは次のビューをサポートしています。

- ・ Merged view - 比較元システムレポートと比較先システムレポートの結合と表示ができます。
- ・ Source view - 比較元システムレポートを表示できます。
- ・ Target view - 比較先システムレポートを表示できます。
- ・ Split view - 比較元システムと比較先システムの両方の分割レポートが表示できます。

Report Panel でレポート要素を選択すると、結果が Block Panel と Slice and Dice Panel (レポート要素がテーブルの場合) に表示されます。

- 1 [View] メニューから [Split view] オプションを選択します。
比較元のドキュメントと比較先のドキュメントのレポート要素の説明が同じタブに表示されます。
- 2 [Report Panel] でレポート要素を選択します。
レポート要素の詳細な情報が Block Panel に表示されます。緑、青、または赤のテキストは、移行中に変更が加えられたことを意味します。テーブル構造が [Slice and Dice Panel] に表示されます。

3.7 Desktop Intelligence レポートインスタンスから Web Intelligence インスタンスへの変換

Desktop Intelligence ドキュメントをスケジュールすると、このドキュメントのインスタンスはドキュメント履歴の一部になります。ドキュメントを Web Intelligence に変換すると同時に、そのドキュメントのインスタンスを Desktop Intelligence 形式から Web Intelligence に変換することがあります。

ドキュメントインスタンスを変換するには、次の手順を実行します。

- 1 レポート変換ツールを接続モードで起動します。
- 2 [レポート変換ツール] ウィンドウのファイルエクスプローラビュー (左側のペイン) で、変換する個々のレポートを選択し、[>>] ボタンを選択することで、選択したレポートを右側のペインに移動します。

注

右側のペインの [インスタンス] 列に、変換するために選択した Desktop Intelligence ドキュメントそれぞれで利用できるインスタンスの数が表示されます。

- 3 右側のペインでドキュメントを選択して、[インスタンスの変換] を選択します。

注

[インスタンスの変換] ボタンは、選択した Desktop Intelligence ドキュメントに利用できるインスタンスがある場合にのみ有効になります。デフォルトでは、このボタンは無効です。

[ドキュメントインスタンスの変換] ウィンドウに、ドキュメントのすべてのインスタンスが、名前、オーナー、タイムスタンプの値とともに表示されます。

- 4 変換するインスタンスを選択します。すべてのインスタンスを変換する場合は、最後のテーブル列の上部にあるチェックボックスを使用して、すべて選択します。

変換結果に部分的に変換されたインスタンスを含める場合は、[親が一部変換されている場合に変換を続行] チェックボックスをオンにします。

- 5 [OK] を選択します。[レポート変換ツール] のメインビューに戻ります。[次へ] を選択します。

変換処理が開始され、変換が完了すると[変換が完了しました] ウィンドウが表示されます。ドキュメントとそのインスタンスの変換ステータスは、この画面で確認できます。

注

[インスタンス] 列では、変換されたドキュメントの行には [いいえ]、変換されたインスタンスには [はい] と表示されます。これによって、ドキュメントとそのインスタンスを区別できます。

- 6 [閉じる] を選択して、タスクを続行します。

画面に、Desktop Intelligence (ソース) ドキュメントと Web Intelligence (ターゲット) ドキュメントの比較、および変換結果の監査データベースへの保存のためのオプションが表示されます。

注

レポート変換ツールでは、インスタンス名とソースインスタンスの作成時間を付加して、変換されたインスタンス (Web Intelligence 形式) の名前が生成されます。

- 7 ソースとターゲットのドキュメントまたはインスタンスを比較する場合は、関連するオプションを選択するか、[次へ] を選択します。

画面に、変換したレポートやインスタンスを BI 4.1 CMS の公開先に公開するためのオプションが表示されます(デフォルトでは、デフォルトのプロパティとともに、ターゲットに公開するようすべてのレポートが選択されています)。

- 8 要件に基づいて、次のいずれかを実行します。
 - ・ ターゲット (Web Intelligence) のドキュメントまたはインスタンスの名前を変更するには、[ターゲット名] 列の値を右クリックして、[名前の変更] を選択し、新しい名前を指定します。
 - ・ ドキュメントの公開先を変更するには、[ターゲットフォルダ] 列に表示されているフォルダを右クリックして、[フォルダの変更...] を選択します。
 - ・ Web Intelligence ドキュメントとともに公開先に公開する、Desktop Intelligence 以外のソースドキュメント (.pdf、.xls、.rtf など) を指定するには、[公開する .rep ではないインスタンスを選択] を選択します。表示されるウィンドウで、公開する非 Desktop Intelligence インスタンスを選択して、[OK] を選択します。

注

変換したインスタンスを公開するターゲットフォルダを変更するオプションは、ドキュメントに対してのみ画面に表示されます。インスタンスには表示されません。これは、インスタンスはドキュメント履歴の一部として存在し、ドキュメントそのものと同じフォルダに置かれるからです。インスタンスには、ドキュメントそのものの以外の場所は設定できません。

- 9 画面の [次へ >] を選択します。

ターゲットドキュメントとそのインスタンスの [公開のステータス] (部分的に変換/完全に変換/未変換) が画面に表示されます。

注

[インスタンス] というタイトルのテーブル列では、ドキュメントを含む行には [いいえ]、インスタンスを含む行には [はい] が表示されます。これによって、ドキュメントとそのインスタンスを区別できます。

- 10 [閉じる] を選択します。

変換が完了し、変換結果の概要が画面に表示されます。[終了] を選択してツールを終了するか、[初めに戻る] を選択 (他のドキュメントやインスタンスを変換する場合) します。

SAP BusinessObjects InfoView では、ターゲットフォルダ (手順 8 で指定) にアクセスして、変換されたドキュメントの [履歴] を開いて、変換されたインスタンスを表示できます。

Desktop Intelligence 機能の変換

4.1 レポートの機能と変換のステータス

変換されたレポートと元の Desktop Intelligence レポートの類似レベルは、元のレポートの機能によって異なります。レポート変換ツールでは、Desktop Intelligence のすべての機能を Web Intelligence に変換できるわけではありません。Desktop Intelligence の機能の中には、Web Intelligence でサポートされないものもあります。レポート変換ツールでは、元のレポートの機能に応じて、レポートに [完全に変換]、[部分的に変換]、または [未変換] のマークを付けます。

元のレポートの各機能には独自に関連付けられた変換ステータスがあり、最も重大なものは変換の全体的なステータスを生成します。たとえば、元のレポートに変換できない機能が含まれているために、[部分的に変換] ステータスが生成されると、レポート全体が部分的に変換されているとみなされ、その機能は Web Intelligence レポートに示されません。

元のレポートに特定の機能があると、レポート変換ツールで Web Intelligence レポートが生成されない場合があります。この場合、変換ステータスは [未変換] になります。

4.1.1 完全に変換されたレポート

完全に変換されたレポートは元のレポートと構造的には全く同じ、またはほぼ同じですが、変換中に一部のマイナー機能やプロパティが失われる場合があります。

注

完全に変換されたレポートは元のレポートと構造的には同じですが、特定の状況で変換されると異なる数値を返す場合があります。これは、Web Intelligence 計算エンジンによる構造の解釈が異なるためです。

Web Intelligence で本来サポートされない機能でも、レポート変換ツールによって Web Intelligence レポートに再実装されるものがあります。たとえば、Desktop Intelligence のグループ化された変数は、変換された Web Intelligence レポートに If 関数を使用して実装されます。

再実装された機能は Web Intelligence で同様に動作しますが、[完全に変換] ステータスには影響しません。

4.1.2 部分的に変換されたレポート

元の Desktop Intelligence レポートの特定の機能は、デフォルトのステータスである [部分的に変換] を生成します。レポートに、[部分的に変換] ステータスを使用する機能が 1 つ以上含まれる場合、レポート全体にも [部分的に変換] のフラグが設定されます。

この動作は、レポート変換ツールの初期化ファイルを編集して変更できます。これは、デフォルトで [部分的に変換] のステータスを生成する機能を含むレポートが多数あっても、その機能の変換が重要ではない場合に使用すると便利です。この場合、初期化ファイルを編集して、その関連のステータスを [完全に変換] に設定できます。

4.1.3 変換されないレポート

Desktop Intelligence レポートに、変換できない重要な機能が含まれている場合、レポートは変換されません。たとえば、ユニバース以外のデータプロバイダや SQL 文の直接入力があるレポートに含まれている場合、そのレポートは変換できません。

4.2 機能の変換ステータスのカスタマイズ

レポート変換ツールには XML 形式の初期化ファイルがあり、このファイルを使用して一部のレポート機能で生成されるステータスを決定できます。これらの機能には、[完全に変換] または [部分的に変換] のフラグを設定できます。

初期化ファイルでは、ニーズに合わせて変換プロセスをカスタマイズできます。変換中に [部分的に変換] ステータスを生成する機能を含むレポートが多数あっても、この機能の変換が重要でない場合は、初期化ファイルを編集して、この機能で [完全に変換] のステータスが生成されるようにします。

注

初期化ファイルでは、すべてのレポート機能で生成されるステータスを制御できるわけではありません。一部の機能について、レポート変換ツールにより、初期化ファイルの設定ではなくハードコーディングされた変換ステータスが生成される場合は、初期化ファイルを使用してそのステータスを変更することはできません。

関連項目

- 28 ページの [機能とその変換ステータス](#)

4.2.1 初期化ファイルについて

初期化ファイルは、errorlogsettings.xml という名前で \$INSTALLDIR/win32_x86 フォルダに保存されています。ファイルは次のような形式になります。

```
<LOGMANAGER>
<ERRORLOGS TARGET="FULLYCONVERTED">
<!-- FILTER -->
<ERROR TYPE="Filter/FilterFormula"/>
<!-- BREAK -->
<ERROR TYPE="Breaks/ValueBasedBreaks"/>
<!-- DRILL -->
<ERROR TYPE="Drill/QueryDrill"/>
<ERROR TYPE="Drill/MissingRef"/>
<!-- GRAPH -->
<ERROR TYPE="Graph/3DChart"/>
<ERROR TYPE="Graph/PieChart"/>
<ERROR TYPE="Graph/ElementPosition"/>
<ERROR TYPE="Graph/Pie3DChart"/>
<ERROR TYPE="Graph/General"/>
</ERRORLOGS>
<ERRORLOGS TARGET="PARTLYCONVERTED">
<!-- QUERY -->
<ERROR TYPE="Query/Query"/>
<ERROR TYPE="Query/Keyword"/>
<ERROR TYPE="Query/QueryProp"/>
<ERROR TYPE="Query/QueryCond"/>
<ERROR TYPE="Query/Grouping"/>
...
```

注

次の章で提供されている表を使用して、ニーズに合わせてカスタマイズするために初期化ファイルで編集するエントリを確認します。

28 ページの [「機能とその変換ステータス」](#)

4.2.2 初期化ファイルの編集

デフォルトでは、ファイルは一部の機能 (<ERRORLOGS TARGET="FULLYCONVERTED"> セクションにリストされているエラー) について [完全に変換] ステータスを生成し、その他の機能 (<ERRORLOGS TARGET="PARTLYCONVERTED"> セクションにリストされているもの) について [部分的に変換] ステータスを生成します。

特定の機能によって生成されるステータスを変更するには、その機能を当該セクションに移動します。たとえば、[部分的に変換] ステータスを生成する、ブロック内の計数でのフィルタ機能が必要ない場合は、対応する要素を次のように FULLYCONVERTED セクションに移動します。

```
<LOGMANAGER>
<ERRORLOGS TARGET="FULLYCONVERTED">
<ERROR TYPE="Filter/BlockMeasureFilter"/>
</ERRORLOGS>
...
</LOGMANAGER>
```

注

エラーが両方のセクションに含まれる場合は、[完全に変換]ステータスが生成されます。エラーがどちらのセクションにも含まれない場合は、[一部のみ変換]ステータスが生成されます。

4.3 機能とその変換ステータス

変換処理を起動する際、完全に変換されるドキュメントもあれば、一部のみ変換されるドキュメントもあります。次の表に、Web Intelligence に完全に変換できない Desktop Intelligence ドキュメントまたはレポートを示します。

特定の機能があると、レポート全体を変換できない場合があります。

SAP BusinessObjects Desktop Intelligence 機能	Web Intelligence レポートでの結果	変換ステータスまたは初期化ファイル設定
データプロバイダ		
OLAP データプロバイダ	レポートは変換されません。	未変換
XMLデータプロバイダ	レポートは変換されません。	未変換
ユニバースデータプロバイダ (4.1 でユニバースが見つからない場合)	レポートは変換されます。	完全に変換
ユニバース接続 (4.1 でユニバースが見つからない場合)	レポートは変換されます。	完全に変換
クエリ		
計算オペランドを使用するフィルタ	レポートは変換されません。	未変換
クエリー結果オペランド (query on a query) を使用するフィルタ	レポートは変換されます。	完全に変換
ユーザー オブジェクト	レポートは変換されません。	未変換
自動更新設定	設定は失われます。	一部のみ変換

SAP BusinessObjects Desktop Intelligence 機能	Web Intelligence レポートでの結果	変換ステータスまたは初期化ファイル設定
メジャーにフィルタをかけた分析範囲	分析範囲オブジェクトが結果オブジェクトになります。	一部のみ変換 注 メジャーオブジェクトに集計フィルタを適用し、分析の範囲を設定すると、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence レポート用に作成される SQL と Web Intelligence レポート用に生成される SQL は異なります。
定義に Designer の @Script 関数が含まれるオブジェクト	レポートは更新できません。	一部のみ変換
クエリーでの並べ替え	並べ替えは失われます。	完全に変換
[末尾の空白を取り除く] オプションセット	オプションは失われます。	完全に変換
[データを受信しない] オプションセット	オプションは失われます。	完全に変換
ドキュメントのプロパティ		
拡張表示設定は、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence に存在しません。	拡張表示設定が有効化されます。	完全に変換
フィルタ		
複雑なグローバル フィルタまたはブロック フィルタ	フィルタは失われる場合があります。	Filter/ComplexGlobalFilter または Filter/ComplexBlockFilter
式のフィルタ	変数が作成され、フィルタはその変数に適用されます。	完全に変換
ブロック内のフィルタがメジャーに適用されます。	フィルタは失われます。	Filter/BlockMeasureFilter
セクション		

SAP BusinessObjects Desktop Intelligence 機能	Web Intelligence レポートでの結果	変換ステータスまたは初期化ファイル設定
セクションヘッダ式の表示/非表示	式が True の場合、セクションヘッダは表示または非表示になります。	完全に変換
セクションフッタ式の表示/非表示	式が True の場合、セクションフッタは表示または非表示になります。	完全に変換
折りたたみ/展開		
セクション	レポートは変換されます。	完全に変換
テーブル、クロスタブ、ブレイク	レポートは変換されます。	完全に変換
特殊なレポート コンテンツ		
Windows OLE オブジェクト (静的のみ)	GIF 形式に変換されます。	完全に変換
画像 (TIFF) (静的のみ)	GIF 形式に変換されます。	完全に変換
動的な場合の画像または OLE オブジェクト (たとえば、ランタイムに、または "Read as pictures" プロパティを使用して計算されるパス)	画像またはオブジェクトは失われます。	画像またはオブジェクトは削除されます。
ブロック		
Hide Block 式	レポートは変換されます。	完全に変換
クロスタブの横軸表示設定	設定は失われます。	一部のみ変換
改ページ後の改ページ ヘッダー 設定	設定は失われます。	一部のみ変換
改ページ後の改ページ フッター 設定	設定は失われます。	一部のみ変換

SAP BusinessObjects Desktop Intelligence 機能	Web Intelligence レポートでの結果	変換ステータスまたは初期化ファイル設定
非表示オブジェクト ([ピボットをブロック] 設定)	オブジェクトの種類がメジャーの場合、このオブジェクトは完全に変換されます。	完全に変換
ブレーク		
複数のディメンションでブレーク 注 これは、単一のディメンションに複数のブレークを持つ 1 つのブロックではなく、複数のディメンションで定義されているブレークを表します。	レポートは変換されます。	完全に変換
ブロックではなくオブジェクトでブレーク	レポートは変換されます。	完全に変換
ブレークの折りたたみ	レポートは変換されます。	完全に変換
値ベースのブレーク	レポートは変換されます。	完全に変換
ページ		
ページ設定オプション	レポートは変換されます。	完全に変換
関数		

SAP BusinessObjects Desktop Intelligence 機能	Web Intelligence レポートでの結果	変換ステータスまたは初期化ファイル設定
ApplicationValue	RepFormula ("original_syntax") として表示されます	Formula/UnsupportedFunction
BlockNumber		
CurrentPage		
GetProfileNumber		
GetProfileString		
Hyperlink		
OLAPQueryDescription		
PageInSection		
CountAll	Web Intelligence 構文に変換されます。	一部のみ変換
日付形式		
すべての日付形式	マッピングに応じて等価の Web Intelligence 形式に変更されます。	完全に変換
セルの書式設定		
文字挿入	文字挿入は失われます。	完全に変換
Hide cell 式 (独立セル)	hide cell 式は失われ、セルは常に表示されます。	FormatCell/Appearance
罫線スタイル	マッピングに従って変換されます。	完全に変換
変数		
すべての変数	変数の説明は失われます。	完全に変換

SAP BusinessObjects Desktop Intelligence 機能	Web Intelligence レポートでの結果	変換ステータスまたは初期化ファイル設定
変換できない別の変数を参照する変数	レポートは変換されません。	未変換
グループ化された変数	グループ化された変数は If 関数を使用して実装されます。	完全に変換
並べ替え		
ブロックは、ブロックに含まれないオブジェクトで並べ替えられます。	レポートは変換されます。	完全に変換
チャート		
複数グループ	最初のグループのみ表示されます。	Graph または MultiGroupChart
3D 円チャート	Web Intelligence の 3D 円チャートにはプロットエリアがありません。	Graph または Pie3DChart
立体チャート	Web Intelligence の立体チャートにはプロットエリアがありません。	Graph または 3DChart
系列の色	系列とその色の元の関係は失われます。	完全に変換
回転、仰角、開始角度	これらの設定は、Web Intelligence では失われます。	完全に変換
プロットエリア	プロットエリアは、Web Intelligence の円チャートと立体チャートには存在しません。	完全に変換
壁面の色	Web Intelligence ではすべての壁面が同じ色になります。	完全に変換
保存オプション		
書き込みパスワードまたは読み取りパスワード セット	レポートは変換されません。	未変換

SAP BusinessObjects Desktop Intelligence 機能	Web Intelligence レポートでの結果	変換ステータスまたは初期化ファイル設定
フォント		
フォントのマッピング	カスタマイズ可能なルールに従って SAP BusinessObjects Desktop Intelligence と Web Intelligence 間でフォントがマッピングされます。	完全に変換

4.4 レポート変換ツールでの式の変換

Desktop Intelligence レポートで使用される次の式は、レポート変換ツールで変換されるようになりました。

- ・ MultiCube (Web Intelligence レポートでは ForceMerge という名称に変更)
- ・ DataProviderType
- ・ Product

4.5 Desktop Intelligence レポートインスタンスから Web Intelligence インスタンスへの変換

Desktop Intelligence ドキュメントをスケジュールすると、このドキュメントのインスタンスはドキュメント履歴の一部になります。ドキュメントを Web Intelligence に変換すると同時に、そのドキュメントのインスタンスを Desktop Intelligence 形式から Web Intelligence に変換することがあります。

ドキュメントインスタンスを変換するには、次の手順を実行します。

- 1 レポート変換ツールを接続モードで起動します。
- 2 [レポート変換ツール] ウィンドウのファイルエクスプローラビュー (左側のペイン) で、変換する個々のレポートを選択し、[>>] ボタンを選択することで、選択したレポートを右側のペインに移動します。

注

右側のペインの [インスタンス] 列に、変換するために選択した Desktop Intelligence ドキュメントそれぞれで利用できるインスタンスの数が表示されます。

- 3 右側のペインでドキュメントを選択して、[インスタンスの変換] を選択します。

注

[インスタンスの変換] ボタンは、選択した Desktop Intelligence ドキュメントに利用できるインスタンスがある場合にのみ有効になります。デフォルトでは、このボタンは無効です。

[ドキュメントインスタンスの変換] ウィンドウに、ドキュメントのすべてのインスタンスが、名前、オーナー、タイムスタンプの値とともに表示されます。

- 4 変換するインスタンスを選択します。すべてのインスタンスを変換する場合は、最後のテーブル列の上部にあるチェックボックスを使用して、すべて選択します。

変換結果に部分的に変換されたインスタンスを含める場合は、[親が一部変換されている場合に変換を続行] チェックボックスをオンにします。

- 5 [OK] を選択します。[レポート変換ツール] のメインビューに戻ります。[次へ] を選択します。

変換処理が開始され、変換が完了すると [変換が完了しました] ウィンドウが表示されます。ドキュメントとそのインスタンスの変換ステータスは、この画面で確認できます。

注

[インスタンス] 列では、変換されたドキュメントの行には [いいえ]、変換されたインスタンスには [はい] と表示されます。これによって、ドキュメントとそのインスタンスを区別できます。

- 6 [閉じる] を選択して、タスクを続行します。

画面に、Desktop Intelligence (ソース) ドキュメントと Web Intelligence (ターゲット) ドキュメントの比較、および変換結果の監査データベースへの保存のためのオプションが表示されます。

注

レポート変換ツールでは、インスタンス名とソースインスタンスの作成時間を付加して、変換されたインスタンス (Web Intelligence 形式) の名前が生成されます。

- 7 ソースとターゲットのドキュメントまたはインスタンスを比較する場合は、関連するオプションを選択するか、[次へ] を選択します。

画面に、変換したレポートやインスタンスを BI 4.1 CMS の公開先に公開するためのオプションが表示されます (デフォルトでは、デフォルトのプロパティとともに、ターゲットに公開するようすべてのレポートが選択されています)。

- 8 要件に基づいて、次のいずれかを実行します。
 - ・ ターゲット (Web Intelligence) のドキュメントまたはインスタンスの名前を変更するには、[ターゲット名] 列の値を右クリックして、[名前の変更] を選択し、新しい名前を指定します。
 - ・ ドキュメントの公開先を変更するには、[ターゲットフォルダ] 列に表示されているフォルダを右クリックして、[フォルダの変更...] を選択します。
 - ・ Web Intelligence ドキュメントとともに公開先に公開する、Desktop Intelligence 以外のソースドキュメント (.pdf、.xls、.rtf など) を指定するには、[公開する .rep ではないインスタンスを選択] を選択します。表示されるウィンドウで、公開する非 Desktop Intelligence インスタンスを選択して、[OK] を選択します。

注

変換したインスタンスを公開するターゲットフォルダを変更するオプションは、ドキュメントに対してのみ画面に表示されます。インスタンスには表示されません。これは、インスタンスはドキュメント履歴の一部として存在し、ドキュメントそのものと同じフォルダに置かれるからです。インスタンスには、ドキュメントそのものの以外の場所は設定できません。

- 9 画面の [次へ >] を選択します。

ターゲットドキュメントとそのインスタンスの [公開のステータス] (部分的に変換/完全に変換/未変換) が画面に表示されます。

注

[インスタンス] というタイトルのテーブル列では、ドキュメントを含む行には [いいえ]、インスタンスを含む行には [はい] が表示されます。これによって、ドキュメントとそのインスタンスを区別できます。

- 10 [閉じる] を選択します。

変換が完了し、変換結果の概要が画面に表示されます。[終了] を選択してツールを終了するか、[初めに戻る] を選択 (他のドキュメントやインスタンスを変換する場合) します。

SAP BusinessObjects InfoView では、ターゲットフォルダ (手順 8 で指定) にアクセスして、変換されたドキュメントの [履歴] を開いて、変換されたインスタンスを表示できます。

Windows AD 認証用のレポート変換ツールの設定

サポートパッケージを使用してレポート変換ツールをアップグレードする場合、Windows AD 認証用に次のディレクトリの場所に初期化ファイル (RCT.ini) を作成する必要があります。

<Install_dir>%SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0%\win32_x86\config

RCT.ini ファイルには、以下の内容が含まれている必要があります。

```
# For windows AD Configuration for RCT
-Djava.security.krb5.conf=C:\winnt\krb5.ini
-Djava.security.auth.login.config=C:\winnt\bscLogin.conf
```


より詳しい情報

情報リソース	場所
SAP BusinessObjects 製品情報	http://www.sap.com
SAP ヘルプ ポータル	<p>http://help.sap.com/businessobjects/ へアクセスし、[SAP BusinessObjects Overview] サイドパネルから [All Products] をクリックします。</p> <p>SAP ヘルプ ポータルでは、すべての SAP BusinessObjects 製品とそのデプロイメントについて扱った最新のドキュメンテーションにアクセスできます。PDF 版またはインストール可能な HTML ライブラリのダウンロードが可能です。</p> <p>一部のガイドは SAP サービス マーケットプレイスに格納されており、SAP ヘルプ ポータルからは入手できません。ヘルプ ポータルのガイド一覧で、そのようなガイドには SAP サービス マーケットプレイスへのリンクが付いています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。</p>
SAP サービス マーケットプレイス	<p>http://service.sap.com/bosap-support > ドキュメンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インストール ガイド: https://service.sap.com/bosap-instguides ・ リリース ノート: http://service.sap.com/releasenotes <p>SAP サービス マーケットプレイスには、一部のインストール ガイド、アップグレードおよび移行ガイド、デプロイメント ガイド、リリース ノート、サポート対象プラットフォームに関するドキュメントが格納されています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。SAP ヘルプ ポータルから SAP サービス マーケットプレイスにリダイレクトされた場合は、左側のナビゲーション ペインのメニューを使用して、アクセスするドキュメンテーションが含まれているカテゴリを探します。</p>
Docupedia	<p>https://cw.sdn.sap.com/cw/community/docupedia</p> <p>Docupedia は追加のドキュメンテーションリソース、協調的なオーサリング環境、および対話型のフィードバックチャネルを提供します。</p>

情報リソース	場所
開発者向けリソース	https://boc.sdn.sap.com/ https://www.sdn.sap.com/irj/sdn/businessobjects-sdklibrary
SAP Community Network 上の SAP BusinessObjects に関する記事	https://www.sdn.sap.com/irj/boc/businessobjects-articles これらの記事は、以前はテクニカル ペーパーという名称でした。
ノート	https://service.sap.com/notes これらのノートは、以前はナレッジ ベース記事という名称でした。
SAP Community Network 上のフォーラム	https://www.sdn.sap.com/irj/scn/forums
トレーニング	http://www.sap.com/services/education 弊社では、従来のクラス型の学習から目標を定めた eラーニング セミナーまで、学習ニーズや好みの学習スタイルに合わせたトレーニング パッケージを提供しています。
オンライン カスタマー サポート	http://service.sap.com/bosap-support SAP サポート ポータルには、カスタマー サポート プログラムとサービスに関する情報が含まれています。また、さまざまなテクニカル情報およびダウンロードへのリンクも用意されています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。
コンサルティング	http://www.sap.com/services/bysubject/businessobjectsconsulting コンサルタントは、初期の分析段階からデプロイメントプロジェクトの実現まで一貫したサポートを提供します。リレーショナル データベースと多次元データベース、接続、データベース設計ツール、カスタマイズされた埋め込みテクノロジーなどのトピックに関する専門的なサポートを行います。

索引

D

DataProviderType 式 34
Designer
インストール 11

F

ForceMerge 式 34

M

MultiCube 式 34

P

Product 式 34

W

Web Intelligence
機能 5
ドキュメント 5

い

移行
情報の入手場所 5
前提条件 5
リポジトリ 5
インストール
クライアントまたはサーバ 11

か

監査
レポート変換結果 5

き

既存のドキュメント一覧ファイルを開く
変換処理 13

こ

公開
ドキュメントのセキュリティ 19

公開 (続き)
変換されたレポート 18
公開前
変換結果の概要 17

し

式の変換 34
初期化ファイル 26
初期化ファイル設定 26

す

ストアドプロシージャ 16

せ

説明
レポート変換ツール 5
前提条件
BusinessObjects BI platform XI
Release 3 のインストール 5
Designer のインストール 11
ユーザ設定 11

て

データの変換
オプション 13

と

ドキュメントのセキュリティ
公開 19

ひ

表示
変換結果 17
変換されたレポートの結果 17
表示する監査レポート 18
開く
選択されたレポート一覧 13

ふ

フォルダ
選択するレポートの参照 13

プラットフォーム
Windows のみ 11

へ

変換
定義済み 5
変換結果
表示 17
変換処理
ウィザードの実行 12

ほ

保存
選択されたレポート一覧 13

ま

マニュアル
オンラインダウンロード 5

ゆ

ユーザ設定
前提条件 11

り

リポジトリ
移行 5

れ

レポート
変換のためのアクセス 5
レポート構造
変換のみ 13
レポートの選択
フォルダツリーの使用 13
レポートの選択と変換
詳細手順 13
レポートの比較 19
レポート比較ツール 19
レポート変換ツール
ウィザード 12
概要 5
内容 5

